

建設環境委員会行政視察報告書（令和4年7月27日）

| |
|---|
| 日 時：令和4年7月27日（水）13時30分～15時30分 |
| 視 察 先：埼玉県所沢市 |
| 視察事項：所沢ブランド特産品認定制度について |
| <p>内 容</p> <ul style="list-style-type: none">・ 質問事項1. 所沢ブランド特産品創出支援事業について<ul style="list-style-type: none">・ 取り組むきっかけ・ 協力団体（商工会議所やまちづくり観光協会など）・ 事業たちあげまでの予算・ ブランド化までの流れ、要した期間2. 対象商品について<ul style="list-style-type: none">・ 持ち帰り可能な商品に定めた理由・ 持ち帰りできない飲食店等からの意見や要望・ 申請件数の推移3. 選考について<ul style="list-style-type: none">・ 成功例や失敗例・ 認定の更新、内容の変更、取り消しの実情・ 認定の更新時の審査4. 効果について<ul style="list-style-type: none">・ 認定により得られる事業者の効果・ 認定により得られる市民の効果5. 他との連携について<ul style="list-style-type: none">・ 他の様々な事業者支援との連携も含めた効果、課題、発展方向について |
| <p>視察を終えて</p> <p>東大和市と隣接する所沢市（人口34万人、面積72.11km²）で、東京オリンピック・パラリンピックの開催や、国内最大級のポップカルチャーの発信拠点、ところざわサクラタウンのオープンを好機ととらえて、所沢商工会議所、所沢市まちづくり観光協会や市内企業、事業者と共に立ち上げた所沢ブランド特産品認定制度は、インバウンドを含めた観光客のお土産や、市民の贈答品として広く活用していただき、“所沢”を象徴する魅力ある特産品を創出し、市内地域経済の活性化を図るもので、持ち帰りのできる「お土産」に特化したところが特徴でした。</p> <p>また、所沢ブランド特産品を、ところざわサクラタウンに併設した所沢市観光情報・物産館「よっとこ」にて陳列、販売することで来場するお客様に広く周知することができていました。</p> |

※視察の資料等については、議会事務局に保管してあります。

建設環境委員会行政視察報告書（令和4年11月10日）

| |
|--|
| 日 時：令和4年11月10日（木）13時30分～16時00分 |
| 視 察 先：千葉県市原市 |
| 視察事項：いちほら国府ブランド商品のPRについて 梨等の特産品のPRについて |
| 内 容 1. 市原商工会議所が立ち上げた「いちほら国府ブランド」と市原市との連携関係などの関係性について 2. 立ち上げまでの経緯について 3. 「地産地消推進協力店」全般的な説明 4. 認定要領の中の市長のPRについての関係機関とは具体的にどのようなところか 5. 3.に付随して市原市地産地消マップの説明（制作までの経緯、苦労点等） 6. 市原市地産地消推進協議会についての説明（構成メンバー等） 7. 平成27年7月15日号広報に出ている「いちほら梨サイダー」に対する市原市としての連携について（小湊鉄道とJA市原市のコラボ商品について） |
| 視察を終えて 市原市（人口27.5万人、面積368.2km ² ）は、市原商工会議所が立ち上げた、かつて市原に置かれていた「国府」の雅なイメージをコンセプトにした「いちほら国府ブランド」として特産品を創出、認定し、市内外にPRしながら販売支援をしているものだった。また、その商品を選定する委員の中に、複数人の高校生を含めているということで、次世代の若い斬新なアイデア、意見も反映されているところが特徴だった。また、梨等の特産品に対しては、市原市として、議員立法に由来する、地産地消推進協力店認定体制を整備し、販売支援及び地産地消推進はもとより、農商工の連携のきっかけづくりにより、市内産の新鮮な農畜産物の生産拡大を目指していた。 また、特産品の販売所である、「道の駅あずの里いちほら」を見学したが、地元の人、県外の人、とても活況であった。そして、道の駅に併設している農業センターも見学したが、市の職員が梨等の新品種の開発や栽培方法の研究をし、それを生産者にフィードバックするということが、あらゆる体制が整っていると感じた。 |

※視察の資料等については、議会事務局に保管してあります。